

【事例 H30-15】千葉県

若者のための相談ガイド

【概要】若い世代の自殺が減少しないことや国の動向等を鑑み、若い世代に対し、独りで悩まずに相談することの大切さを啓発し、早期に不安や悩みの解決につなげることを目的として、2016年度より困りごとを相談できる様々な窓口を掲載した相談ガイドを作成、毎年改訂している。関係機関連絡会や事業担当者間においても、意識づけのためにも相談ガイドを毎年継続的に配布することが重要であると考えている。現在、市立小学校5・6年生児童および市立中学校1～3年生生徒、本市と包括協定を締結している市内私立大学2校、その他庁内関係部署、関係機関へ配付・設置しているほか、2019年度からは市内県立高等学校7校での設置を開始した。

【大綱の分類】

2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
6. 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
7. 社会全体の自殺リスクを低下させる
11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】

- 基本3-1) リーフレット・啓発グッズ等の作成と活用
 重点1-1) いじめを苦しめた子どもの自殺の予防
 重点1-2) 若者の抱えやすい課題に着目した学生・生徒等への支援の充実
 重点1-5) 若者自身が身近な相談者になるための取組

【事業実施年度】2019年度事例（2016年度～2019年度）

【事業予算】226,800円（2019年度）

【利 点】

- ▼ 児童・生徒が自身や友人の気持ちの変化に気づき、SOSを発信できる。
- ▼ 児童・生徒を通じて、その保護者にも子どものSOSのサインや相談窓口を周知することができる。
- ▼ 学校を通じて配布することで、夏季休暇前に児童・生徒へ確実に手渡すことができる。

【実施に至るまで】

背景

- ① 若年層への自殺対策が課題と認識され始めたことから、既に作成・配付していた相談窓口一覧「市川市民のためのテレホンガイド」の他、若年層向けとして本ガイドの作成を検討。
- ② 本ガイドを自ら見て、相談窓口を選択し電話やメールができる年齢を勘案し、小学5年生～中学校3年生を対象とした。配布にあたっては、市教育委員会との打合せを重ねた。

計画を立てる上での工夫

- ① 市教育委員会へ相談し、児童や生徒が手に取りやすい文言とイラストを挿入し、レイアウトを工夫した。

- ② 配布時期については、長期休みの8月下旬から9月上旬にかけ、全国的に児童・生徒の自殺が増加することから、夏季休暇直前の7月に配布とした。

具体的な内容

- ① A3 サイズ2つ折り、カラー印刷、漢字のほとんどに読み仮名を振った。
 - ② 掲載内容は、相談先の案内だけでなく、悩んだり困っているときのサインについて「からだ・こころ・生活/行動面」の3つに分けて具体例を表記し、児童・生徒自身だけでなく、保護者も子どものSOSのサインに気づくことができる内容とした。
- ▼ 2016年度より配付開始
 - ・市立小学校5, 6年生全児童および市立中学校1~3年生全生徒へ夏季休暇前に配付（以降、例年配付）。
 - ▼ 2017年度より市内私立大学において設置開始
 - ・本市と包括協定を締結している市内私立大学2校において、学生の目にとまりやすい場所へ設置。
 - ▼ 2019年度より市内県立高等学校7校において設置開始
 - ・各学年の各教室内に掲示する等、生徒の目にとまりやすい場所へ設置。
 - ・高校生への配布時期は、県教育委員会と相談し、進路や進級に対し悩みを持ち始める時期である11月に設定。

【成果】

- ▼ 本ガイドを見て相談につながった生徒・学生がいた。また、夏期休暇明けの子どもの様子が心配であるという保護者からの相談があった。
- ▼ 配布・設置にあたり、他課や他機関と連携することが多くなり、連携強化につながった。
- ▼ 配付や設置依頼を通し、他課や他機関と若年層への自殺対策の重要性を共有する機会となった。

【補足】

- ▼ 若い世代の人に親しみを感じてもらいやすいデザイン



その他の補足

相談先	相談時間	電話番号
市立小学校5, 6年生全児童および市立中学校1~3年生全生徒	夏季休暇前	047-502-1111
市内私立大学2校	学生目にとまりやすい場所	047-502-1111
市内県立高等学校7校	11月	047-502-1111

こころ 困った時は相談しましょう

このガイドブックの相談窓口へ掲載してください。当のあなたの気持ちも届かしてあげてください。

市川市 市川市健康増進センター 047-502-4511

このガイドブックには、悩んだり困っているときのサインについて「からだ・こころ・生活/行動面」の3つに分けて具体例を表記し、児童・生徒自身だけでなく、保護者も子どものSOSのサインに気づくことができる内容とした。

サインに気づいたら、ひとりで悩まず相談してください。

学校や友達へのしるし、家族、虐待などの相談

相談先	相談時間	電話番号
市立小学校5, 6年生全児童および市立中学校1~3年生全生徒	夏季休暇前	047-502-1111
市内私立大学2校	学生目にとまりやすい場所	047-502-1111
市内県立高等学校7校	11月	047-502-1111

【課 題】

- ▼ 現在の配付、設置先は市内公立小学校、中学校、高等学校に限られているが、私立教育機関への配付はしていない（大学を除く）。
- ▼ 本ガイドを見て相談につながった事例がどのくらい増加したか、配布の効果があったのか、評価が困難である。

【事業種別】	啓発チラシの配布（若者対象）
【準備期間】	改訂作業・他課との調整・作成・梱包・配付完了まで約3か月
【人 数】	作業人員6名（うち事業担当2名）
【人口規模】	495,592人（2019年度10月1日 千葉県常住人口調査より）
【財政規模】	147,188,261,000円（2017年度歳出決算額）
【自治体負担率】	33.3%
【事業対象】	市内公立小学校5、6年生児童、市内公立中学校1～3年生生徒、市内私立大学生、市内公立高等学校生徒 等
【支援対象】	39歳以下の若年層
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	市川市保健部 保健センター健康支援課 TEL：047（377）4511（代表）

【参考資料・文献】

- (ア) 市川市 HP
- (イ) 令和元年度版 自殺対策白書「学生・生徒等の自殺をめぐる状況」